

# 第16回肝臓病教室

このたび、第16回肝臓病教室が平成27年3月31日に開催されました。今回も22名の受講者にお越しいただきました。今回の肝臓病教室のテーマは、「C型肝炎」です。

まず、田中医師より「C型肝炎治療の現状と今後の展望」について講演がなされました。

インターフェロン治療適格者の場合、初回または再燃では三剤併用療法を行います。インターフェロン治療不適格者の場合、未治療/不耐容ではダクラタスビル・アスナプレビルの経口2剤で治療を進めていきます。その際、ウイルスの耐性変異を調べて、その上で治療を開始するか決定します。治療中、肝機能障害が出ることもあるため、治療中は定期的な採血が必要になります。投与開始12週目までは少なくとも2週ごと、それ以降は4週ごとに血液検査を受けることが大切です。また、今後用いられる新薬についても説明され、C型肝炎は飲み薬で治す時代へという展望を述べられました。

続いて、市原放射線科技師より「肝臓のMRI検査」について講演がなされました。

MRI検査は、約40分で検査直前の食事制限があります。MRI検査では、CTの造影検査とよく似た画像が得られますが、遅延相では細胞膜外漏出の造影剤による画像を得ることができます。造影剤を投与すると、血流が増えている多血性肝細胞がんは、たくさんの造影剤が流れ込み、周りの肝臓よりも白く描出されます。その後、造影剤は肝細胞がんから流出し、肝細胞がんは周囲より黒く描出されます。さらに時間が経つと、肝細胞に特異性のある造影剤では肝細胞の中に入り肝臓が白く造影されるため、肝細胞がんはいっそう黒く描出され発見しやすくなります。MRI検査は、放射線被曝がないので、繰り返して検査を行うことが可能です。

続いて、奥野薬剤師より「C型肝炎治療薬～新薬のご紹介～」について講演がなされました。

インターフェロン注射を使用しない、内服だけの治療に「インターフェロンフリー」があります。ダクルインザという錠剤を1日1回1錠。スンペプラというカプセルを1日2回、1回につき1つ。この2種類を毎日、24週間服用します。服用を忘れた時は、次に飲む時間と4時間空いていれば、気づいた時に忘れた1回分を飲んで頂くことができます。4時間空いていなければ、その回はとばして、後日主治医に報告して下さい。2回分を一度に服用することは絶対に避けて下さい。治療を開始するにあたり、飲み合わせを確認する必要があります。飲み合わせが悪いと、薬の効果が落ちたり、副作用が出てしまうこともありますので注意して下さい。

最後に、藤本管理栄養士から「C型慢性肝炎と栄養」の講演がなされました。

肝機能を悪化させないためには、適正エネルギー、適正蛋白を維持することが大切になります。治療後に発がんリスクを上げるものとして、高齢、男性、線維化進展、飲酒、脂肪肝、インスリン抵抗性などが挙げられます。食事療法では、C型慢性肝炎での肝機能維持に大きな効果が期待できる適正なエネルギー(年齢、身長、体重、活動量に見合った)の摂取が重要であると説明されました。

消化器内科では、定期的にさまざまなテーマで肝臓病教室を開催していく予定です。

今後の予定につきましては、院内掲示や当院のホームページでご確認下さい。

